

会員の皆様へ

本学会会員の先生が出版された論文に対し、「捏造疑惑があるとの内部告発がなされ調査中」という趣旨の文書と、それを巡るいくつかの報道・問い合わせなどを受けて、7月1日に緊急の役員会を開催致しました。その会議によって、即日、独立の調査委員会が発足致しました。本学会として、学術的な視座から、社会への説明責任を果たすためであります。

調査委員会は、中立性を担保できる委員構成とし、本学会のみならず他学会所属の専門家にも委員の労を取って戴きました。関連諸分野の多数の専門家が、ご尽力下さった結果、迅速に調査委員会の中間報告書を頂戴致しました。また、お問い合わせを戴きながらも、お待ち戴いておりました報道関係者の方々、並びに文部科学省にも、中間報告結果をご説明致しました。精査並びに中間報告書作成にあたられました調査委員会の各先生に深く感謝申し上げます。

7月27日付けの調査委員会の中間報告では「本件に関わる多くの論文に関し、意図的な捏造と見られる点はない」との結論であります。

科学・技術は未知の分野の探索・開発でありますから、多くの専門家の視点で精査致しますと、学術的にさらなる検討の必要性や注意を払うべきであった点は見出されます。しかしながら、これらの学術的な問題は、学会の公開討論の場で議論すべき内容であったかと存じます。そして至らぬ点を互いに正しつつ精進することが、学会のあるべき姿であり、また、本来の使命でもあると考えます。さらに、社会への説明責任を果たすべく、最終報告へ向けて調査委員会のご尽力を賜りたいと存じます。

最先端の科学は、現在、ますます専門化される一方で分野横断的となりつつあります。一つの論文で、その主目的が一点に絞られる場合であっても、それを取り巻く関連分野の広汎な知識や検討が必要となりつつあります。このような現況にあって、公開の学術集会の場を活用し、多くの専門家が互いの議論を深めることがこれまで以上に必要であります。本学会と致しましても、関連諸分野との連携をさらに深め、分野間の架橋・融合に務めると同時に、このような新たに解決すべき問題にも対処して参りたいと存じます。会員の皆様におかれましても、どうか宜しくご高配下さいますようお願い申し上げます。

社団法人 日本分析化学会 会長
小泉 英明